

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	中原区第4グループ(新城・大戸・宮内)	評価対象年度	平成27年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日	所管課	青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	H26		H27		H26		H27		
	1 新城こども文化センター ①年間延べ利用者数	34,487人	36,696人	②年間延べ利用団体数	170団体	160団体			
2 新城小学校わくわくプラザ ①登録者数	318人	326人	②年間延べ利用者数	21,349人	24,003人				
1 大戸こども文化センター ①年間延べ利用者数	39,983人	44,828人	②年間延べ利用団体数	374団体	392団体				
2 大戸小学校わくわくプラザ ①登録者数	445人	436人	②年間延べ利用者数	20,106人	19,836人				
3 大谷戸小学校わくわくプラザ ①登録者数	497人	519人	②年間延べ利用者数	27,533人	30,776人				
1 宮内こども文化センター ①年間延べ利用者数	36,282人	37,860人	②年間延べ利用団体数	381団体	392団体				
2 宮内小学校わくわくプラザ ①登録者数	357人	353人	②年間延べ利用者数	19,052人	19,140人				
3 中原小学校わくわくプラザ ①登録者数	299人	371人	②年間延べ利用者数	21,046人	24,248人				
収支実績	単位:円								
1 収入									
指定管理料	150,095,430								
2 支出									
人件費	130,530,628								
管理費	11,907,845								
事務経費	7,616,055								
その他経費	4,698,114								
合計	154,752,642								
3 差引	-4,657,212								
サービス向上の取組	運営協議会、保護者懇談会、子ども運営会議、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、活動や運営に反映。事業者のスケールメリットを活かした全館行事、区行事やグループ行事など地域を超えた児童の健全育成、交流の場づくりを実施。								

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	順調に事業の推進が図られているか	10	4	8
		事業計画に基づき、こども文化センター事業とわくわくプラザ事業を着実に実施したか			
		こども文化センターの利用者数に増加傾向が見られるか			
		わくわくプラザにおいて、適切に児童を受け入れているか			
<p>(評価の理由) 複数館運営するスケールメリットを活かし、全施設及び区内10館の合同行事を実施し、複数館で実施ならではの体験や他の施設を利用する子ども達と交流を深めた。グループ合同行事には多くの子どもが参加し地域との連携を深めることができた。「カレー大作戦」は昨年引き続き飯盒炊飯をプログラムに入れることで、普段体験できないことを体験できる貴重な機会となっている。「乳幼児と高校生のふれあい交流」では乳幼児親子と新城高校や地域の子育てサロン、保健福祉センターとの協力連携により実現できた。事前に乳児の月齢等を記入した名札を用意したところ、名札をきっかけに話題が膨らみ、限られた時間の中で充実した交流となり命の大切さを学び伝えながら、地域ボランティアとの交流の輪を広げることができた。また、各館とも子ども運営会議へ毎月どんなことをやりたいか意見を伺い、子どもたちの希望に沿ったゲーム大会や季節行事を子どもと一緒に企画の実施に関わりながら実現していった。これらの取組の結果、3館とも利用者が前年度より増加した。</p>					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理及び金銭管理をしているか	5	3	3
	効率的・効果的な支出	計画に基づき適切な支出をしているか	5	3	3
		効率的な執行等、経費削減に具体的に取組んでいるか			
		サービスの水準を確保しているか			
	支出に見合う効果が得られているか				
<p>(評価の理由) 会計処理・金銭処理については適正に行われている。受託20グループ53施設を管理している運営法人のスケールメリットを活かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品や備品の一括購入等の取り組みによる経費削減を図った。</p>					

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業の周知に積極的に取り組んでいるか	5	4	4
	利用者への対応	利用者に対するサービスが適切にされているか	5	4	4
		特別な配慮を要する利用者への対応が適切にされているか			
	運営協議会の実施	子ども文化センター運営協議会を実施しているか	5	3	3
	保護者懇談会の実施	わくわくプラザ保護者懇談会を実施しているか	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校、行政及び地域等と連携しているか	10	3	6
	利用者ニーズ	利用者ニーズを把握し、事業運営に反映させているか	10	4	8
<p>(評価の理由) 利用パンフレットや毎月のおたよりを発行し、近隣に配布、施設案内や毎月の活動を周知した。大戸子ども文化センターでは新たに保護者に向けて「空手クラブだより」を年6回発行するなど、新たな広報媒体を積極的に活用し、事業の広報に努めた。特別な配慮を必要とする児童への対応については、担当教諭が児童をわくわくへ連れてきた時に、必ずその日の様子を直接聞き取り、巡回相談員によるアドバイスや研修を通してスタッフ間で支援を必要とする児童との接し方について共通理解を得られるようにしている。なお大戸小学校わくわくに至っては、特別な介助を要する児童のため理学療法士や作業療法士等の専門職からの助言をもらいながら適切に支援した。運営協議会が開催されており、地域との活発な意見交換、良好な関係作り等に寄与している。保護者を対象にわくわくプラザのアンケートを実施し、保護者懇談会も年3回実施した。第4グループでは年末の「大掃除」を地域と協力して行い、子どもと大人がペアになって担当箇所を掃除し、世代間交流を果たした。利用者のニーズ把握のために意見箱を設置し日々の交流を通して個々のニーズを把握し、把握した意見を職員会議で話し合い、その結果を館長からの返事として館内に掲示した。新城子ども文化センターでは集会室入口にカーテンを設置して、ドアを開けながらも卓球の球が飛び出さないよう改善したり、乳幼児ルームに半分だけマットレスを敷くことで乳児と幼児が同時利用ができるようにしたり、中学生からの要望を受け、集会室の利用(予約)ルールを明確にして張り紙で掲示することで利用時の予約の重複による混乱を解消、新たにフリータイムという利用方法を創出することができた。</p>					
組織管理体制	適正な人員配置	川崎市児童福祉施設の設備及び運営の基準に関する条例第54条の規定に従い職員を配置しているか	10	3	6
		子ども文化センター及びわくわくプラザの施設管理と事業運営のために、指定管理仕様書において定める職員配置の最低基準どおりに人員を配置しているか			
		川崎市公契約条例を遵守しているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップに必要な研修を実施したか(外部研修の受講を含む)	10	4	8
個人情報等の取扱	個人情報保護に関する規定や体制を整備し、適正に取り組んでいるか	5	3	3	
<p>(評価の理由) 適正な人員配置については、子ども文化センター及びわくわくプラザにおいて、適正に職員が配置され、利用児童数や特別な配慮を必要とする児童などの状況に応じて、適時、職員を加配しており、円滑な事業運営が行われた。研修体制については、法人全体の10年以上にわたる青少年分野における人材育成のノウハウを活かし、全市・グループ・館ごと、または、職位ごと、分野ごとの研修など、体系的・計画的な研修が行われていた。特にグループ研修では「遊びの研修」をその重要性や目的、企画書の作り方と事前準備について、実際の事例を取り上げて実施することで研修後もその事例を活用できるようにした。なお、研修受講後は会議等でフィードバックし情報共有を図った。個人情報等の取扱については、個人情報や電子データは鍵のかかる保管庫に保管されている。情報漏えいや紛失等の事実はなかった。</p>					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障を来たすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備、備品管理等を適切に実施しているか	5	3	3
		利用者の安全確保	利用者の安全を確保する体制(マニュアル等)を整備しているか	5	3
		事故等が発生した場合に適切な対応をしているか			
		感染症予防対策や発生時において、適切な対応をしているか			
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯のための工夫をしているか	5	3	3
		災害発生時に備え、マニュアル等を整備しているか			
	災害発生時に確実な対応・行動を取るための取組をしているか				
<p>(評価の理由) 利用者が安全に利用できるようマニュアルを作成し、施設・設備の安全点検を実施するとともに、迅速に修繕を行うなど環境整備に努めた。また衛生管理についてもマニュアルを整備し、利用者の安心・安全に繋げた。わくわくプラザはおやつの前等、子どもが全員集まる時に学校の木登りの危険性やお弁当やお菓子の交換は食物アレルギーのある子への配慮から禁止していること等を話し合い、事故を未然に防ぐための行動について子どもたちの意識の向上を図った。また、保育園看護師を講師に「安全管理・衛生管理研修」を実施、受講したことにより、感染症発症時の対応や日常的な手洗いうがいの励行の徹底、事故を未然に防ぐための安全点検など「衛生管理」「安全管理」についての職員の意識を高めることができた。</p>					

4. 総合評価

評価点合計	68	評価ランク	C
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

<p>指定管理者以前から子ども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に携わった経験を生かし、地域に根ざした事業運営、施設運営を行った。地域と幅広く連携することで、館の利用者が増加し、多世代交流、地域の活性化に寄与することができた。</p> <p>適切な運営管理及び研修等を通じた職員のスキルアップを行うことで、子どもの安全を守り、子どもが安心して過ごせる居場所づくりを行った。</p> <p>また、各館とも子ども運営会議を重視し、子どもの参加や意見をできるだけ聞き取り対応するようにしていた点や、意見箱等で出た一つ一つの意見に対し職員が話し合った結果を「館長からの返事」としてフィードバックした点が評価できる。</p>
--

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

<p>引き続き、子ども文化センター及びわくわくプラザの利用者が安心して利用できるよう環境整備やスタッフのスキル向上に努め、利用者にとって各施設がより居心地の良い場となることを期待する。また、スタッフ一人一人が子どもの権利条例を理解し、子どもの居場所としての側面を意識することを期待する。</p>
